

広島県中小企業団体中央会 2016年9月分情報連絡一覧表

食料品

●食料品

中国醤油醸造協同組合

9月の出荷量はスポット的な受注があり、前月比37.8%増加、前年同月比56.5%増加、売上高は前月比31.9%増加、前年同月比39.6%増加となった。

木材・木製品

●木材・木製品

福山木材協同組合

年内は忙しいと思われる。

広島県木材協同組合連合会

平成28年8月の全国の住宅着工戸数は82,242戸で、前年同月比では2.5%増加、また、季節調整済年率換算値では95.6万戸（前月比4.9%減少）となった。利用関係別では、持家は26,341戸で前年同月比4.3%増加、貸家は36,784戸で前年同月比9.9%増加、分譲住宅は18,509戸で前年同月比12.7%減少となった。なお、木造住宅の着工数は48,717戸で、前年同月比7.9%増加となった。

住宅着工の動向は、前年同月比で2ヶ月連続の増加となったが、引き続き、今後の動向をしっかりと注視する必要がある。

こうした全国の動きに対し、広島県内の8月の着工戸数は1,598戸で前年同月比10.1%の増加、このうち、持家は486戸で前年同月比0.4%の減少、貸家は561戸で前年同月比0.5%増加、分譲は551戸で前年同月比36.4%の増加となった。県全体の住宅着工の動向は、前年同月比で2ヶ月連続の増加となったが、地域別では、広島市は着工戸数713戸で10.4%増加、福山市は308戸で31.1%増加、呉市が149戸で217.0%増加の一方、東広島市は125戸で54.2%減少、廿日市市は37戸で11.9%減少と地域間でばらつきが見られる。また、堅調なプレカット部門などに対し、依然低調な製材部門など、会員、業態によって売上や収益等に好不調の差があるとの聞き取り結果となっており、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

化学・ゴム

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

先月同様、国内景況感の改善は見られない。

自動車業界に納入している部品メーカーにとっても、国内生産台数の減少や為替差損の影響が続いている。また、労働人口の減少による人手不足により、残業管理にも頭を痛めている状況である。先行き不透明感は強まる一方である。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

売上は、自動車関連会社を中心にやや良好である。

全体的に大企業、特にメーカーはここ2年程度続いた円安バブルの終息が見られ、一転厳しい状況となっている。今後着実に下方へも影響が出ることが予想される。

窯業・土石製品

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況(24工場)

28年9月 3,253m³ (対前年10.2%増加)

28年8月 3,101m³

27年9月 2,951m³

鉄鋼・金属製品

●鉄鋼業

軀鉄鋼協同組合連合会

中小零細企業と大企業に同様の労働基準法を適用すること、及び最低賃金等を一律にするのは現実的には非常に困難である。猶予措置や助成額の増額ではなく抜本的な見直しが必要ではないだろうか。

一般機器

●一般機械器具

協同組合三菱広島協力会

広島県西部観音地区においてはコンプレッサー関係、製鉄関係が低操業のため、それに伴い協力会社各社の操業も低調である。

江波地区においては、航空機のパネル組立が高操業であり、それに伴い協力会社各社の操業も高操業である。

広島県東部機械金属工業協同組合

今月は納期の延期や工事の遅れが重なり出荷額が伸びず、売上は前月比25%減少、前年同月比15%の減少となった。外部環境的には特に変化は見られないが、協力会社などの加工作業は減少しているようである。

電気機器

●電気機械器具

(電気) 広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は、組合員1社で購入品の不良品があり、製品の生産が停滞したため、全体では前月比変化なし、前年同月比2%減少となった。輸出物件が停滞しており、国内ではスマートメーター以外は横ばい傾向にある。

最低賃金の上昇や残業規制が厳しくなれば、大いに経営を圧迫することになる。取引先に価格交渉をしているが、厳しい状況である。為替が100円を切るようだと輸出案件が減る可能性があり、先行きが不透明である。雇用問題、賃金問題、残業規制など中小企業にとっては厳しい問題が多い。

輸送用機器

●輸送用機械器具 (自動車)

東友会協同組合

9月の国内自動車販売台数は全需が477千台、前年同月比0.5%減少と2ヶ月振りの前年割れとなった。登録車は前年比3.7%増加と2ヶ月連続の前年超え、軽自動車は8.0%減少と21ヶ月連続の前年割れとなった。

マツダ車は11.4%減少と12ヶ月連続の前年割れとなった。

アメリカの8月の全需は1,513千台で前年同月比4.1%減少と3ヶ月振りの前年割れ。マツダ車は同12.8%減少と2ヶ月振りの前年割れとなった。

欧州の8月の全需は1,019千台で、前年同月比4.6%増加と2ヶ月振りの前年超えとなった。マツダ車は同4.5%減少と15ヶ月振りの前年割れとなった。

中国の8月の全需は1,738千台で、前年同月比3.5%増加。マツダ車は47.9%増加と3ヶ月連続の前年超えとなった。

上記各地域の状況下、マツダ車の8月の海外販売合計台数は109千台、前年同月比2.3%増加と5ヶ月連続の前年超えとなった。

マツダの8月の輸出動向については、輸出台数は前年比36.1%増加と3ヶ月振りの前年超えとなった。

マツダの8月の国内生産台数は、前年同月比4.7%増加と4ヶ月振りの前年超えとなった。

●輸送用機械器具（造船）

中国地区造船協議会

県内2,500総トン以上の平成28年9月の船舶建造許可実績は5隻209,500総トン（前月1隻144,000総トン、前年同月3隻202,750総トン）であった。なお、このうち4隻は貨物船で1隻が油槽船となっており、全て輸出船となっている。

（社）中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化はない。

●輸送用機械器具（造船関連団地）

呉鉄工業団地協同組合

引き続き原材料の高騰により収益性が悪化している。

その他

●家具・装備品

広島家具工業協同組合

市況にあまり変化はない。

大塚家具（東京）が山根HDと業務提携し、出島に10月1日新店舗がオープン。フロア面積約1,000㎡、約2,000点の商品を陳列予定である。小売にとっては競争激化が予想される一方で、大塚家具が中高級品中心であるため、広島近隣からのユーザーも増えるのではないかと推察される。大塚家具の出店により、高級品が目につくようになれば組合員企業各社の扱う商品も中高級品であるため、将来的には販売チャンスが訪れるのではと期待される。ここ20数年で小売店が減少しているが、大塚家具や近い将来IKEYAなどが出店すると、家具市場そのものが活性化されるのではないかと期待している。

卸売業

●卸売業（総合）

協同組合広島総合卸センター

中小卸売業の景況感は厳しい状況が続いている。公共工事が景気を下支えしており、建設資材関連は概ね安定しているが、雑貨・食品・繊維等は厳しい環境である。

「資材関連」においては、公共工事は件数・請負金額とも増加、民間住宅関連も堅調である。HEMS関連機器（ZEH（ネットゼロエネルギーハウス）、スマートグリッド（次世代送電網）の普及に伴い、住宅をめぐるエネルギー環境が整備されつつある。

「食品」においては、外食向けは、前年対比マイナスで推移、大手外食産業は価格引下げ傾向にある。

「繊維」においては、9月になっても暑い日が続き、店舗に投入した秋物肌着がほとんど売れていないため売上は減少している。国内肌着メーカーの減少、熟練工員の減少で、「作りたいが頼めるところがない」「欲しいときに商品が揃わない」状態となる懸念がある。

「雑貨」においては、生活雑貨の売上は、前年割れ。デフレの影響か、外国人の爆買いは減少している。製品単価は下がらなくても、製品の少量化などで対応するメーカーもある。

●卸売業（電設資材）

広島県電設資材卸業協同組合

住宅着工は順調に推移しているが、非住宅（民間物件）や太陽光関連においては引き続き苦戦している。

●卸売業（豊・敷物）

広島県藁製品商業協同組合

国内産藁草は、製織は最盛期に入り、新草の豊表生産は活発な動きとなっている。相場も堅調に推移している。また、秋の展示会が各地で実施され、消費のPRに努めている。9月に入り、受注は堅調で、相場も高値横ばいで推移。

中国産の豊表においても、今年度は生産量の抑制を図ったことから相場を見ながらの生産体制となっている。相場は横ばいで推移している。

小売業

●各種商品小売業

チューリップチェーン商業協同組合（チェーンストア）

9月の売上は、前月比増加となったが、前年比は減少した。これは、主力店が今期店舗を閉店されたこともあるが、現在の野菜の主力産地である北海道から東北にかけて8月、9月と台風が上陸したことによる被害で、野菜の相場が高騰。組合員の主力納入先施設（病院、老人施設）において、野菜を冷凍野菜や中国産野菜に切り替えられたことによるものである。また、店舗でも商品の販売単価が高く、販売量が落ち込んだことが売上減少の要因となった。こうした状況は現在も続いている。しかし、11月に入れば産地が九州へと移行してくるため、価格は平年並みにもどるのではないかと見ている。

協同組合三次ショッピングセンター

9月11日～13日までカープの優勝セール期間中の売上は好調であったが、その期間以外の売上は伸び悩み、月間売上は低迷した。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

9月度の販売実績は前年同月比5.1%減少となった。商品別では、薄型テレビ前年同月比5.9%減少、BDレコーダー同2.5%減少、音響・車載機器同20.5%減少、冷蔵庫同8.9%減少、洗濯機同3.7%減少、エアコン同8.2%減少、エコキュート同12.9%減少、IHクッキングヒーター同3.7%減少となった。

商店街

●商店街（各種商品小売業）

呉本通商店街振興組合

9月は、空き店舗に健康食品の販売店が開設した。また廃業したビルが売却解体中で、今後葬祭会館が建設予定である。その他2ヶ所で建物解体の話がある。

広島金座街商店街振興組合

今月は、カープ優勝特需により売上増となった。

サービス業

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は前月比15.5%増加、前年同月比3.5%増加。車検場収入は前月比16.1%増加、前年同月比7.0%増加。重量税・登録印紙の売上は前月比23.9%増加、前年同月比17.6%の増加となっている。

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

前月に受注しきれなかった物件の受注はあるものの件数が少なく、低調である。

建設業

●工事業

広島県室内装飾事業協同組合

8月の売上については、前月比40%増加、前年同月比145%増加となった。前月比で見るとカーテン工事は43%増加、壁装工事は51%増加と大きく増加した。前年同月比では、敷物工事も含め、3工事とも大きく増加した。

9月の累計では、敷物工事が前年同月比27%増加であるが、全体では、前月比4%減少、前年比9%減少で推移している。8月は前月比、前年同月比共に増加となったが、今日は逆に共に微減となった。ただし、累計前年比では、カーテン工事と壁装工事については10%弱の増加となっている。建築竣工が増える年度末までは、しばらく売上も上下する見込みである。

若年層の人材確保について、全国的に見て公的な職業訓練校に加えて企業運営の学校も増えつつあるが、その数は十分とは言えず、実際の現場の人材確保も十分とは言えない。

神辺建設業協同組合

各社、年度末工期の案件を抱え、現場の稼働率は上昇傾向にあるが、人手不足や職人不足といった人員確保の問題が浮き彫りになっている。

人員確保のために労働者賃金の上昇が望まれるが、中小企業を中心に雇用賃金の上昇は緩やかである。企業が積極的に賃金を上げやすくする税制改正などが望まれる。

福山地区電気工事業協同組合

住宅新築の減少と太陽光発電申請の投資マインドが回復しないため、9月における工事受注件数は、前月比32.0%減少、前年同月比19.2%減少となった。

運輸業

●道路貨物運送業

松永地区トラック事業協同組合

昨年9月はシルバーウィークがあり、20日以降は車両の稼働が悪かったが、今年は車両の稼働も良く、それに比例して売上も伸びた。

トラック輸送は以前と比較すると高速道路や自動車専用道が増え、運転時間の短縮に繋がっているが、こういった道路を利用すると通行料が発生する。しかし、運賃以外に高速道路料金を出しているだけの荷主は稀で、事業主としては運転時間の短縮を推進したいが、費用増を抑えたいとの思いもある。

ドライバーの雇用状況は改善の兆しもなく、今後さらに高年齢化が進行していくのではないかとと思われる。

広島県ロジネット協同組合

9月の荷動きは、昨年と同様10日以降から活発に動き、月末までそのピークを継続するというパターンとなった。ただ今年は昨年に比べると量的にやや少なかったようである。後半荷物が活発なのは多くの企業が半期決算を迎えることが要因であると見られる。やや車不足の状況が続いた感じもある。また、台風の影響により、安全には特に細心の注意を払った月となったようである。

軽油価格は月初めに3円/L程度の値上げが予想されていたが、大幅な値上げとはならず、1円/L程度にとどまったようである。ただ、OPEC会合にて減産合意が発表されたため、今後値上げは避けられないのではないかと予想されている。

広島輸送ターミナル協同組合

原油の減産が話題になっており、今後の価格動向を注視したい。

●水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高齢化が進んでいると同時に若年船員が育っていないため、船員不足である。運賃、用船料の改善が見られない。

その他

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

9月は、前月の仕事量に比べると若干増加しているため、収益状況は良くなっている。前年同月比については特に変化はない。

今年度は市町の固定資産税の3年ごとの評価替えの年にあたるため、これから仕事量が増加する見込みである。